

2023年度 研究所事業報告書

研究所名	国際地域研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2023年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式Bに記述のうえ提出してください。

本研究所(国際地域研究所[以下 国地研])は、1989年の設立以降、国際関係学と地域研究の両分野において、先端的な研究活動をリードすることで、国内外の学術コミュニティに貢献しようと努めてきた。その大きな目標からみて、2015年までの到達点を、国地研の「発展第一ステージ」、2016年以降「発展第二ステージ」と位置づけている。この「第二ステージ」では、「国地研アイデンティティ」の創造と、その国内外への浸透を掲げて活動を進めてきた。2022年度以降は、国地研、あるいは立命館大学全体として豊富に知的蓄積がなされてきた「平和研究」と「アジア研究」の強みを生かし、さらに伸ばすことで、国地研を「平和研究」及び「アジア研究」の重要な研究拠点として、国内外に打ち出すべく活動を進めている。具体的には、2つの重点プロジェクトを国際展開の牽引役として位置づけ、国内外に国地研のプレゼンスを発揮させることに務めた。同時に6つの研究所内プロジェクトを設置し、新規の萌芽的研究課題と、継続的研究課題の両方をバランスよく支援した。

その際、平和研究の「紛争・平和構築研究プロジェクト」と、アジア研究の「中国強国化プロジェクト」という二つの重点プロジェクトの連携強化・深化を、2023年度も意識した。両プロジェクトを連携させつつ進めてきた研究成果の一部については、Australia National University Pressからの刊行が決定した。また、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて、改めて武力紛争に焦点を当てて分析を深めつつ、非伝統的な安全保障問題や、サイバー空間の問題などにも視野を広げた点が特筆すべき活動であった。加えて、2022年度より進めてきた University of East Anglia(UEA)との共同研究が具体的に進展し、冷戦期日本の安全保障を多角的に再検討する共同研究プロジェクトの一回目の会合を本学で開催した。2024年度には UEA で第二回ワークショップを開催予定である。また、新型コロナウイルス蔓延以降控えていた対面でのシンポジウム、ワークショップも開催できるようになり、国際的なシンポジウムも久々に開催し多くの参加者を得るなど、研究報告、論文と合わせて、研究成果発信に努めた。

若手による研究成果発信を促すためにも、研究所として、若手メンバーの研究指導にも力を入れた。若手研究者に対して、プロジェクトの研究会で報告をしたり、司会、討論を務める経験を積ませたりするとともに、メンバー共同で論文指導を行ったうえで、その成果については国際ジャーナルや、国際地域研究所発行の紀要等に投稿するよう促し、博士論文をもとにした書籍の刊行もなされた。加えて、若手研究者の、研究会運営能力の向上、或いはネットワーキング支援も兼ねて、若手研究会を若手研究者中心に運営してもらい、2023年度には都合月例研究会6回、若手ワークショップ1回が開催された。

なお、国地研の2023年度の主要な成果は以下の通りである。重点プロジェクトの「紛争・平和構築研究」では、新型コロナウイルス蔓延が、人々の平和と安全や紛争に与える影響、国際人口移動に与える影響を中心に研究し、その成果は、32回の研究会、土曜講座などに加え、図書出版13点、論文23本、学会発表63回、メディア掲載や講演96回として発信した。同じく重点プロジェクトの「中国強国化と国際秩序」では、図書出版5点、論文11本、学会発表14回、メディア掲載や講演11回であった。

研究所内プロジェクトは、「日米中政治経済研究会」、「中国法・アジア法研究会」、「アフリカ研究会」、「アフガニスタン研究会」、「平和主義研究会」「実験政治学研究会」が、それぞれ積極的な研究活動を行った。その成果は多岐に渡るため、ここでは紹介しないが、以下の研究業績欄を参照して頂ければ幸いである。

総合的に、研究成果については5ヵ年計画と照らしても順調に進捗した。また、そうした成果を生かしながら、プロジェクトメンバーを代表とする国際共同研究加速基金の獲得にも成功した。研究所の研究活動を充実させるとともに、その成果を踏まえた、さらなる外部資金獲得につなげていけるよう、この経験を生かしていく。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

- ①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位	
研究所長	足立 研幾	国際関係学部	教授	
運営委員	中本 悟	経済学部	教授	
	本名 純	国際関係学部	教授	
	中川 涼司	国際関係学部	教授	
	宮脇 昇	政策科学部	教授	
	守 政毅	経営学部	教授	
	廣野 美和	グローバル教養学部	教授	
	小田 美佐子	法学部	教授	
	白戸 圭一	国際関係学部	教授	
	石川 幸子	国際関係学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	君島 東彦	国際関係学部	教授	
	村上 剛	法学部	教授	
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授	
	松田 正彦	国際関係学部	教授	
	鳥山 純子	国際関係学部	准教授	
	森下 明子	国際関係学部	准教授	
	福海 さやか	国際関係学部	准教授	
	Thomas French	国際関係学部	准教授	
	小林 主茂	国際関係学部	准教授	
	辻本 登志子	国際関係学部	准教授	
	安高 啓朗	国際関係学部	准教授	
	藪中 三十二	国際関係学部	訪問教員	
	角本 和理	政策科学部	准教授	
	池端 露子	衣笠総合研究機構	准教授	
	陳 晋	経営学部	特任教授	
	竇 少杰	経営学部	講師	
	渡邊 松男	立命館大学国際関係学部	教授	
	藤田 明史	国際関係学部	非常勤講師	
	中野 克彦	国際関係学部	非常勤講師	
	申 鉉旣 (シンヒョンオ)	国際関係学部	授業担当講師	
	板木 雅彦	国際関係学部	教授	
手 研 究 者 学 内 の 若	① 専門研究員	Polina Ivanova	アジア日本研究所	専門研究員
	研究員	玉井 良尚	R-GIRO	助教
	初任研究員			

② リサーチアシスタント	山上 亜紗美	政策科学研究科	博士課程後期課程
	Daichi Morishige	国際関係学部	博士課程後期課程
③ 大学院生	稲澤 拓郎	政策科学研究科	博士課程前期課程
	Merideth Cazalas	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Dzhudzhev Radoslav Zapryanov	国際関係研究科	博士課程前期課程
	呂 誠ゆう	国際関係研究科	博士課程前期課程
	辻田 友規	国際関係研究科	博士課程前期課程
	松澤 圭祐	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Jonas Nathaniel Norrel	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Ernis Jumamudun Uulu	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Sophany Pech	国際関係研究科	博士課程前期課程
	吉村 拓人	政策科学研究科	博士課程後期課程
	Radesa Budipramono	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Khairul Hasni	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Yusy Widarahesty	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Yami Roca	国際関係研究科	博士課程後期課程
	米田 優作	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Agnes Siwi	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Chaula R. Anindya	国際関係研究科	博士課程後期課程
	岡本 宗大	経済学研究科	博士課程後期課程
	Dharma Agastia	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Merve OZTURK ASIL	国際関係研究科	博士課程後期課程
	林 晨輝 (LIN Chenhui)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	安 家宇 (AN Jiayu)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	沙 軼文 (SHA Yiwen)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	藤田 美季	国際関係研究科	博士課程前期課程
	陳 家傑 (CHEN Jiajie)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	李 海銘 (LI Haiming)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	王 毓茹 (WANG Yuru)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	閻 文鑫 (YAN Wenxin)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	洪 鈺瑤 (HONG Yuyao)	経営学研究科	博士課程前期課程
	賀 玉潔 (HE Yujie)	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Mina Tadrous	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Peter Ang	国際関係研究科	博士課程後期課程
	Lwin Cho Latt	国際関係研究科	博士課程後期課程
Grace Donaldson	国際関係研究科	博士課程後期課程	
成 虹波 (CHENG Hongbo)	国際関係研究科	博士課程後期課程	
田中裕大	国際関係研究科	博士前期課程院生	
野上淳平	国際関係研究科	博士前期課程院生	
MYLEE Xaikham	国際関係研究科	博士前期課程院生	

	ZHANG Xiangtian	法学研究科	博士課程前期課程
	SHAN Yu	法学研究科	博士課程前期課程
	萩 暁陽	法学研究科	博士課程前期課程
	熊岡 千里	法学研究科	博士課程前期課程
	遠藤 あかり	国際関係研究科	博士前期課程院生
	波床 貴明	経済学研究科	博士課程後期課程
	Xiong Lei	経済学研究科	博士課程前期課程
	安斎 拓真	中央大学商学研究科	博士課程後期課程
	BENITZ TRASLAVUNA Leslie Maria	国際関係研究科	博士課程前期課程
	Sade k Mahmudul Hasan	国際関係研究科	博士課程前期課程
	LE MinhNgoc	国際関係研究科	博士課程後期課程
	任 泰然 (REN Tairan)	国際関係研究科	博士課程後期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	Andrei Yamamoto	国際関係学部	授業担当講師
	山田 翔太	国際関係学部	授業担当講師
	Yusy Widarahesty	衣笠総合研究機構	補助研究員 (23.12-4.3)
客員協力研究員	藤岡 純一	関西福祉大学	名誉教授
	Sugit S. Arjon	宇都宮大学	助教
	岡野 英之	近畿大学	講師
	佐々木 葉月	金沢大学	講師
	津崎 直人	国際地域研究所	客員研究員
	玉井 雅隆	東北公益文科大学	准教授
	近藤 信一	岩手県立大学総合政策学 部	
	小山 大介	京都橘大学経済学部	
	松村 史紀	宇都宮大学国際学部	
	山根 和代	なし	
	井出 文紀	近畿大学経営学部	准教授
	韓 金江	岐阜協立大学経営学部	
	松村 博行	岡山理科大学経営学部	
	申 鉉旣 (シンヒョンオ)	近畿大学国際学部	(国際関係学部・授業担当 講師)
	田村 あずみ	滋賀大学国際交流機構	
	田村 太一	流通経済大学経済学部	
	南 玉瓊	お茶の水女子大学	学生・キャリア支援センタ ー
	本山 央子	お茶の水女子大学	ジェンダー研究所特任リ サーチフェロー
野島 大輔	なし		

	楊 秋麗	京都橘大学経営学部	
	潘 燕萍	中国・深圳大学管理学院	
	魏 聰哲	中華經濟研究院	
その他の学外者	Adhi Priamarizki	Nanyang Technological University	客員教授
	Agus Trihartono	Jember University	講師
	Amitav Acharya	American University	教授
	Lam Peng Er	National University of Singapore	教授
	Mely Cabellero Anthony	Nanyang Technological University	教授
	Shofwan Al Bana Choiruzzad	University of Indonesia	講師
	Ukrist Pasmanand	Chulalongkorn University	教授
	吉川 元	広島平和研究所	特別任用教授
	村上 友章	流通科学大学	准教授
	長有 紀枝	立教大学	教授
	坪内 淳	聖心女子大学	教授
	白石 隆	熊本県立大学	理事長
	円城 由美子	大阪女学院大学	准教授
	高須 幸雄	国際連合	事務総長特別顧問
	河 知延	近畿大学産業理工学部	教授
	西村 友作	対外経済貿易大学国際経済研究院	教授
	David Enwall	オーストラリア国立大学	Associate Professor
	Thomas Wilkins	シドニー大学	Senior Lecturer
	薛 軍	南開大学 (天津)	教授
	青山 瑠妙	早稲田大学	教授
	大門 毅	早稲田大学	教授
	ティムール・ダダバエフ	筑波大学	准教授
	梶谷 懐	神戸大学	教授
	苑 志佳	立正大学	教授
	徐 林卉	上海社会科学院	副研究員
	向 渝	香川大学	准教授
	朱 曄	静岡大学グローバル共創科学部	教授
	朱 省志	中国広東技術師範大学法学・知的財産権学院	准教授

	Nicholas A. R. Fraser	Toronto Metropolitan University's Canada Excellence Research Chair (CERC) in Migration and Integration	Senior Research Associate
	安岡 邦弘	同志社大学人文科学研究所	嘱託研究員
	井上 博	阪南大学流通学部	教授
	森原 康仁	専修大学経済学部	教授
	櫻井 公人	立教大学経済学部	教授
	田村 太一	大阪経済大学	教授
	千葉 典	神戸市外国語大学	教授
	渡邊 英俊	島根大学	教授
研究所構成員 計 146 名 (うち学内の若手研究者 計 60名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Polina Ivanova	Civil Society and International Students in Japan: The Making of Social Capital	単著	2023.年7月	Routledge		pp.1-158
2	Sachiko Ishikawa, Yoichi Mine, Mely Caballero-Anthony, and Ako Muto	Human Security and Empowerment in Asia: Beyond the Pandemic	共著	2023.年10月	Routledge	Yoichi Mine, Mely Caballero-Anthony, and Ako Muto	pp.1-228
3	足立研幾	『平和学辞典』	項目執筆	2023年6月	丸善出版	日本平和学会	
4	白戸圭一	『地図でスッと頭に入る アフリカ 55の国と地域』	監修	2023年10月	昭文社		pp.1-128
5	Takashi Shiraishi, Nobuhiro Aizawa, Jun Honna, Wahyu Prasetyawan	Standing Firm for Indonesia's Democracy: An Oral History of President Susilo Bambang Yudhoyono	共編	2024年1月	World Scientific	Takashi Shiraishi, Nobuhiro Aizawa, Wahyu Prasetyawan	Standing Firm for Indonesia's Democracy: An Oral History of President Susilo Bambang Yudhoyono
6	足立研幾	『国際安全保障がわかるブックガイド』	共著	2024.年2月	慶応義塾大学出版会	赤木完爾・国際安全保障学会編	pp.50-52
7	宮脇昇	『現代ヨーロッパの国際政治』	共著	2023年10月	法律文化社	広瀬佳一・小久保康之編	50-67頁
8	Noboru Miyawaki	The Routledge Handbook of the Political Economy of Sanctions	共著	2023年12月	Routledge	Ksenia Kirkham ed	PP.211-222

9	末近浩太	「中東戦争と石油危機（資源ナショナリズム、南北問題、パレスチナ問題）」立命館大学国際平和ミュージアム編『図録 立命館大学国際平和ミュージアム』	単著	2023年9月	合同出版	立命館大学国際平和ミュージアム	p.95
10	鳥山純子	「家父長制—中東」『論点・ジェンダー史学』	単著	2023年6月	ミネルヴェア書房	山口みどり、弓削尚子、後藤絵美、長志珠絵、石川照子編	pp.224-225
11	池端蒔子	「イスラム教」、『ブリタニカ国際年鑑』2023年度版	単著	2023年5月	ブリタニカ・ジャパン		pp.168-169
12	岡野英之	「紛争—戦争と平和は明確に分けられるのか」	単著	2024年3月	『東南アジアで学ぶ文化人類学』 昭和堂	箕曲在弘・二文字屋脩・吉田ゆか子編	pp.207-222
13	岡野英之	「世界は難民問題にどう向き合ってきたのか」	単著	2023年4月	『ほんとうのグローバルゼーションってなに？—地球の未来への羅針盤—』（世界の食・農林漁業・環境・第1巻）、農山漁村文化協会	池上申一・齋藤博嗣編	pp.92-93
14	廣野美和	「強国」建設に向けた中国の戦略	共著	2023年11月	経団連・21世紀政策研究所	川島真	PP.49-66
15	廣野美和	岐路に立つアジアの未来：平和と持続的な繁栄を実現するための日本の戦略	共著	2023年7月	「アジアの未来」研究会	添谷芳秀 マイク望月	全66ページ
16	竇少杰	第9章 中国商人与家族企業	共著	2023年8月	『義言道商：中国商人与家族管理』	隋広義編著	PP.129-142
17	竇少杰	日本長寿家族企業的永続発展和家業伝承	共著	2024年1月	『当企業史遇見管理学：全球視野与中国經驗』	林立強・武亜軍・郭毅編	PP.92-111
18	韓金江	中国機械産業の技術発展戦略：工作機械・建設機械分野を中心に	単著	2024年2月	法律文化社		全216ページ
19	君島東彦	メアリー・カルドアという補助線—憲法平和政策の予備的考察		2023年5月	愛敬浩二ほか編『水島朝徳先生古稀記念 自由と平和の構想力』日本評論社		pp.170-184
20	君島東彦	憲法の平和構想	単著	2023年6月	日本平和学会編『平和学事典』丸善出版		pp.14-19
21	君島東彦	東アジアの平和をどのように準備するか	単著	2023年10月	『法と民主主義』582号、日本民主法律家協会		pp.4-7
22	君島東彦	平和研究としての憲法9条論	単著	2024年3月	『立命館国際研究』36巻4号		pp.1-17
23	申鉉旰	二十一世紀の平和憲法	共著	2024年7月	法律文化社	出原政雄 上田勝美 宇野義規 大竹秀樹 奥野恒久 彼谷環 河野秀壽命 後藤正人 小林直三 木幡洋子 澤野義一 武川眞固 立石直子 田中和男 寺島俊穂 橋本一雄 本多康作 元山健 山内敏弘 脇田吉隆	PP. 121-139
24	野島大輔	『高校地歴公民科 国際平和を探究するカリキュラム・国連を超えて』	単著	2024年3月	法律文化社		全頁

25	本山央子	「ジェンダー正義」『平和学事典』	共著	2023年6月	丸善出版		pp:618-619.
26	本山央子	「フェミニスト外交」『ジェンダー事典』	共著	2024年1月	丸善出版		PP. 364-365
27	本山央子	『男性学基本論文集』	共訳	2024年1月	勁草書房	平山亮・佐藤文香・兼子歩編	第1, 7, 8, 9章
28	小山大介	『国家安全保障と地方自治—「安保三文書」の具体化ですすむ大軍拡政策』	共著	2023年11月	自治体研究社	井原聰 川瀬光義 白藤博行 永山茂樹 前田定孝	pp.39-70
29	森原康仁	『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり』 「ビッグ・テック—ハイテク製造業からプラットフォーム—」(pp. 25-42) 「巨大プラットフォームと市民社会—社会問題化の現在と将来」(pp. 261-276)	共著	2023年7月	日本評論社	大橋陽・中本悟編	
30	森原康仁	『入門国際経済 Q&A100』 「Q53 なぜ米中はビッグデータをめぐって対立しているのか？」(136-137) 「Q78 パンデミックとウクライナ戦争で国際経済はどう変わったか？」 「Q90 パンデミックはグローバル・サプライチェーンにどう影響したか？」(230-231)「Q91 なぜコロナ危機が金融市場を揺さぶったのか？」(232-233)「Q92 コロナ危機後の「バブル」はどのように推移したか？」(234-235) 「Q93 2020年代の急激な円安の背景には何があるのか？」(236-237)「Q94 コロナ危機で主要国はどういう対策をおこなったか？」(238-239)「Q96 パンデミックはテクノロジーにどう影響を与えるか？」(242-243) および「PARTV コロナ後の国際経済」(199-254)	共著	2023年9月	中央経済グループパブリッシング	坂出健・松林洋一・北野重人編	
31	中本 悟	『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり—』	共編著	2023年7月	日本評論社	大橋陽・中本悟共編	pp.1-23.(序章)
32	田村太一	『現代アメリカ経済論—新しい独占のひろがり—』	共著	2023年7月	日本評論社	大橋陽・中本悟共編	pp. 1 2 5 - 1 4 2. (第6章)

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	白戸圭一	日本人のアフリカ観は時代遅れ悲観か楽観かで捉えるな	単著	2023年7月	Wedge 出版『Wedge』7月号		pp.60~ 62	無
2	白戸圭一	「大國間競争の中のアフリカと日本外交 ロシア、中国のアフリカ政	単著	2023年8月	『国際問題』2023年8月号, 第714号,		27-37	有

		策から考える」						
3	Marcus Mietzner and Jun Honna	“Elite Opposition and Popular Rejection: the Failure of Presidential Term Limit Evasion in Widodo’s Indonesia,”	共著	2023年7月	South East Asia Research, 31(2)	Marcus Mietzner	115-131	有
4	松田正彦	「東南アジア農村の生業構造を理解するための4簡易調査手法—生計多様度指数の標準化と簡便化—」	共著	2023年6月	Kyoto Working Papers on Area Studies, 138	富田晋介、広田勲、山本宗立	1-13	無
5	Akiko Morishita	“Indonesia at the Crossroads: Transformation and Challenges Edited by Masaaki Okamoto and Jafar Suryomenggolo, Gadjah Mada University Press, Trans Pacific Press and Kyoto University Press, 2023, 420 pages,”	単著	2023	International Journal of Asian Studies, 1-3			無
6	Kenki Adachi	“Parasitizing Human Security Norm?: Analysis of the Philippines Government’s References to Human,”	単著	2023年	Journal of Human Security Studies, Vol.12, No.2,		51-69	有
7	FRENCH, Thomas	Employing Contemporary Political Analysis Approaches to Examine the Political Systems of Imperial Japan (I): Methodology Selection and Adaption	単著	2023年.12月	Ritsumeikan Annual Review of International Studies 22(1)	-	pp.17-47	有
8	Girsang, W., M. Matsuda, and S. Yamamoto	Dusung agroforestry systems on Ambon Island, Central Maluku, Indonesia: Sustainable 9livelihoods, land property rights, and poverty reduction	共著	2023年	Journal of Marine and Island Cultures, 12 (3)	Girsang, W. and S. Yamamoto	160-186	有
9	白戸圭一	「人口爆発のアフリカ：“最後のフロンティア”は世界をどう変えるか」	単著	2023年.12月	『安全保障研究』5巻4号		pp.63-75	無
10	白戸圭一	「アフリカとの連携に向けた課題：自由な国際秩序の維持に向けて」	単著	2024年1月	『世界経済評論 2024年1・2月号』68巻1号		pp.,51-59	無
11	Kazushige Kobayashi	“The Consolidation Dilemma in European Order Transformation: Theorising Endogenous Pathways to the Contestation of Liberalism”	単著	2024年3月	Journal of International Relations and Development	N/A	Vol. 27, no. 2, pp.198-225	有
12	足立研幾	「安全保障化、人身御供、アイデンティティ政治—コロナ対策に失敗したドゥテルテ大統領がなぜ過去最高の支持率を記録したのか？」		2024年3月	『立命館国際研究』第36巻第4号			
13	Noboru Miyawaki	Hyflex and Online Gaming Using Three Platforms: In Comparison between Zoom, MS Teams, and oVice	共著	2024年3月	Journal of International Relations and Regional Studies 58	Yoshinao, Tamai, Yoshio, Kubota, et al.	PP. 21-44	無
14	Noboru Miyawaki	Shelters in War, Democracy in Resilience: Policy Implications for Japan from the cases of shelters in Finland, Germany, Sweden and United States	単著	2024年3月	Journal of Civilization in the Pan-Pacific 8		PP. 25-43	無
15	玉井良尚	第二次世界大戦期の相模川インフラ開発における軍の役割とは何だったのか	単著	2024年3月	環太平洋文明研究		PP. 44-59	無
16	Kazushige Kobayashi	“Symposium: Records of Online Guest Lectures on International Peace and Security”	共著	2024年1月	Aoyama Journal of International Studies	Hiromi Fujishige, Keith Krause, Edward	Vol. 11, pp.63-72	無

						Newman (応募者は Second Author)		
17	FRENCH, Thomas	Reflections on a Decade at the Forefront of the Internationalisation of Japanese Higher Education: A Roundtable	共著	2024年3月	Ritsumeikan Kokusai Kenkyu 36(4)	KIMIJIMA Akihiko, ATAKA Hiroaki, KOGA-BROWES Scott, RAJKAI Zsombor	pp.235-259	有
18	末近浩太	「紛争後の非リベラルな国家建設を市民はどのように認識するのか：2021年シリア世論調査結果の分析から」	共著	2023年12月	『比較政治学会年報』第25号	山尾大	PP. 53~80	有
19	Kota Suechika	“Measuring ‘State-Diffusion’ in Post-Conflict Authoritarian Syria: Evidence from the 2021 Public Opinion Survey”	単著	2023年12月	Mediterranean Politics		https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13629395.2023.2291957	有
20	末近浩太	「パレスチナ問題の忘却が生む分断」	単著	2023年12月	『Voice』553号		pp. 68-75	無
21	末近浩太	“Special Feature: Revisiting Islam and Politics in Egypt’s ‘New Republic’”	単著	2024年3月	『イスラーム世界研究』17巻		pp.1-2	有
22	鳥山純子	「家父長制はマザコン生成装置なのか——現代モロッコの嫁姑問題から」	単著	2023年5月	『エトセトラ』Vol. 9		pp.84-89	無
23	Yusaku Yoneda	“Transformation of Salafist Political Attitudes during the ‘Arab Spring’ Period: ‘Democracy’ and ‘Parliamentary Politics’ for Egypt’s al-Da’wa al-Salafiya”	単著	2024年3月	Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies, 17		pp. 25-45	有
24	廣野美和	中国によるミャンマーへの関与—不干渉原則の現実と認識	単著	2023年7月	アジア研究、Vol.69、No.3		PP. 55~70	無
25	Mina Tadrous	China’s Responsibility on Human Rights Protection: Perceptions of Egypt’s Diverse Range of Actors	単著	2023年12月	立命館国際地域研究、57号		PP.65~88	有
26	Grace Donaldson	Palau’s Decision on Land Tenure Policy Change Amid China and US Influences	単著	2023年12月	立命館国際地域研究、57号		PP.43~64	有
27	中川涼司	香港経済の行方—中国経済へのゲートウェイ—中国経済へのゲートウェイ機能の低下と地政学リスク上昇の中で—	単著	2023年8月	東亜、2023年8月号		PP.2~9	無
28	中川涼司	米中経済関係の行方：対立と相互依存	単著	2023年9月	経済、2023年9月号		PP.37~46	無
29	Cheng Hongbo	Characteristics of Chinese Aged Care Workers: A Comparison with Japan and Germany	単著	2023年6月	立命館国際研究、36巻1号		PP. 293~319	有
30	Cheng Hongbo	The Models of Long-Term Care Insurance Benefit Coverage in China: A Case Study of Beijing, Shanghai, Chengdu and Guangzhou,	単著	2023年10月	立命館国際研究、36巻2号		PP.319~341	有
31	任泰然	中国の県域都市部における施設による高齢者介護サービス：吉林省公主嶺市と舒蘭市の事例を中心に	単著	2023年6月	立命館国際研究、36巻1号		PP.321~344	有
32	守政毅	東南アジア5カ国の華人企業経営の変化 - 「全球華商 1000」をもとに-	単著	2023年12月	立命館大学国際地域研究所、立命館国際地域研究、第57号		PP.1~22	無

33	竇少杰	VUCA 時代における中国の家族企業の苦悩と奮闘：浙江省の東星電子有限公司の例を中心に	単著	2023 年 11 月	神戸大学大学院経営学研究科, 経営研究, 74 巻 3 号		pp.41-61	無
34	竇少杰	「新常态」中国の労使関係における新しい特徴：2008 年「労働契約法」の施行も重ねて	単著	2024 年 3 月	日本比較経営学会, 比較経営研究, 48 号		PP.28-46	無
35	小田美佐子	台湾民法改正の最新動向：特別寄稿に寄せて	単著	2023 年 6 月	立命館法学 407 号		P467~469	無
36	小田美佐子	台湾における契約違反に対する救済方法の改正	単訳	2023 年 6 月	立命館法学 407 号	陳聡富	P489~508	無
37	小田美佐子	履行期前の履行拒絶と不安の抗弁権	単著	2023 年 8 月	立命館法学 408 号		P640~653	無
38	小田美佐子	台湾民法改正の最新動向：質疑応答	共著	2023 年 8 月	立命館法学 408 号	陳洗岳、松岡久和、詹森林、道垣内弘人、陳聡富、朱曄	P654~662	無
39	小田美佐子	日本における中国判決の承認と相互の保証	単著	2023 年 9 月	私の心に残る裁判例 Vol.5 (判例時報社)		P16~17	無
40	小田美佐子	顔情報の取扱をめぐる民事裁判の法源	単著	2023 年 12 月	立命館法学 409 号		P379~410	無
41	朱曄	比較法と台湾民法（債編）の改正	単訳	2023 年 6 月	立命館法学 407 号	詹森林	P 470~482	無
42	朱曄	比較法の視点から見た意欲的な中華人民民法債編改正案	単著	2023 年 6 月	立命館法学 407 号		P483~488	無
43	角本和理	情報圏と「人間的充実」(human flourishing)：人間中心主義の相対化と堅持のための情報法学への示唆	単著	2024 年 3 月	年報公共政策学 18 号 (北海道大学公共政策大学院)		P 165~180	有
44	申鉉珩	韓国における良心的兵役拒否制度化の評価と課題—憲法裁判所の 2018 年判決と人権的・憲法的観点からの議論を中心に	単著	2024 年 3 月	立命館大学国際関係学会, 立命館国際研究, 36 巻 4 号		PP. 209~233	有
45	野島大輔	「国際的な危機の時代に対する現代平和教育の応接力の再生」	単著	2024 年 3 月	『立命館国際研究』第 36 巻 4 号		pp.187-208	無
46	本山央子	「ジェンダー主流化再考—グローバル・ガバナンスの中のフェミニスト知」	単著	2024 年 3 月	歴史科学協議会、『歴史評論』2024 年 3 月号 (第 887) ,		pp: 60-68	無
47	Nicholas A. R. Fraser	Does Social Mobility Matter? The Kafala System and Anti-Immigrant Sentiment	共著	2023 年 2 月月	<i>Political Studies Review</i> , 21(4)	Amir Abdul Reda and Ahmed Khattab	801-824	有
48	Kenki Adachi	Parasitizing Human Security Norm? Analysis of the Philippines Government's References to Human Security	単著	2023 年	<i>Journal of Human Security Studies</i>		51-69	有
49	足立研幾	安全保障化、人身御供、アイデンティティ政治—コロナ対策に失敗したドゥテルテ大統領がなぜ過去最高の支持率を記録したのか？	単著	2024 年 3 月	立命館国際研究 36 巻 4 号		19-35	無
50	近藤信一	中国半導体産業および製造装置の現状、米国の政策が及ぼす影響	単著	2023 年 8 月	日中経済協会, 日中経協ジャーナル, 2023 年 8 月号		PP. 14~18	無
51	近藤信一	中国の IC・半導体産業の現状と課題	単著	2023 年 9 月	新日本出版社, 経済, 2023 年 9 月号		PP. 47~59	無
52	小山大介	「グローバル化する日本の通商政策—先鋭化する日米貿易摩擦と市場開放—」	単著	2023 年 6 月	基礎経済科学研究所 『経済科学通信』第 157 号		pp.11-17	無
53	森原康仁	「地政学的緊張下のサプライチェーン・マネジメント—国際生産の	単著	2024 年 6 月	『専修大学社会科学研究所月報』第 720 号		pp. 1-14	無

		産業別パターンと GSC へのエクス ポージャー						
54	森原康仁	「多国間主義の逆行現象と極端な グローバル化の修正」	単著	2024年7月	『専修経済学論集』第 58巻第1号		pp. 127-137	無
55	森原康仁	「地政学的緊張と『レジリエントな サプライチェーンの構築』—極端 なグローバル化の修正と政府関与 の復権」	単著	2024年7月	日本比較経営学会編 『比較経営研究 第 48号 地政学的緊張 と中国・アジアの企業 経営』第48巻		pp. 47-72	有
56	森原康仁	「書評 関下稔著『知識資本の時代 —世紀末の転換と激動の 21 世紀 を診る』」	単著	2014年4月 ~9月	『経済』第339号		pp.86-87	無
57	井出文紀	誌上シンポ グローバル資本主義を 問う	単著	2024年1月	『経済』310号	所康弘、長田華 子、山中達也	PP. 31-53	無
58	森原康仁	「多国間主義の逆行現象と極端な グローバル化の修正」	単著	2024年7月	『専修経済学論集』第 58巻第1号		pp. 127-137	無
59	森原康仁	「地政学的緊張と『レジリエントな サプライチェーンの構築』—極端 なグローバル化の修正と政府関与 の復権」	単著	2024年7月	日本比較経営学会編 『比較経営研究 第 48号 地政学的緊張 と中国・アジアの企業 経営』第48巻		pp. 47-72	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	足立研幾	「とどめの一撃?—ロシアのウクライナ侵 攻は軍縮・軍備管理レジームを崩壊させるの か?」	2023年4月	日本軍縮学会 2023年度研究大会	
2	Jun Honna	Reaffirming the Central Role of Indonesia in Japan's Maritime Non-traditional Security Cooperation in Southeast Asia,”	2023年6月	Seminar on the 65th Anniversary of Indonesia-Japan Diplomatic Relations: Indonesia-Japan Cooperation in Promoting Peace and Security	
3	森下明子	「ジョグジャカルタのネット空間における スルタン評価」	2023年6月	第4回ビッグデータに関する国際共同研究 B 会議	
4	FRENCH, Thomas	Building Beyond the Degree, Establishing Internationalised Student Support and Community Structures at a Japanese University	2023年6月	The Ninth Annual Conference on Global Higher Education at Lakeland University,(Lakeland University)	KOGA- BROWES Scott
5	Noboru Miyawaki	NEA in the wartime in Europe from Japanese Perspective,	2023年6月	The 8th Ulaanbaatar Dialogue on Northeast Asian Security, Ministry of Foreign Affairs of Mongolia, Ulaanbaatar	
6	Jun Honna	“Military Role Expansion in Democratic Indonesia,”	2023年7月	International Conference on Political Development in Southeast Asia: Implications to the Indo-Pacific Democracy	
7	本名純	「インドネシアの民主主義後退をどうみる か」	2023年7月	一橋大学グローバル・ガバナンス研究所ト ークセッション	
8	足立研幾	「グローバルな規範とローカルな論理—人 間の安全保障規範の伝播、普及、形骸化を事 例として」	2023年7月	「集合的なニーズ・権利に関わるグローバ ルな正義の比較社会学的研究」研究会	
9	本名純	「アジアの民主主義:インドネシアの今とこ れから」	2023年8月	NIRA 総研	
10	Kenki Adachi	Under-securitization of COVID-19 in Japan: Voluntary Behavioral Change as Self-defense?”	2023年8月	International Studies Association Asia- Pacific Region Conference 2023	
11	Kazushige Kobayashi	“Rethinking the Boundaries of Peacebuilding in the Asia-Pacific and Beyond: A Conceptual Analysis”	2023年8月	ISA 国際関係学会アジア太平洋地域大会 における研究報告 (東京 8月 8-10 日)	Xinyu Yuan (学会 当日の発表者は応 募者)
12	Kazushige Kobayashi	“The Relational Politics of Global Norm Contestation: Russia, The West, and the Struggle for Legitimacy at the UN General	2023年8月	ISA 国際関係学会アジア太平洋地域大会 における研究報告 (東京 8月 8-10 日)	N/A

		Assembly, 2005-2022”			
13	本名純	「インドネシアと北朝鮮の関係:変化と連続性」	2023年9月	極東問題研究所、韓国ソウル、2023年9月5日	
14	Polina Ivanova	“Leadership in migrant support organisations: International student leaders in Japan and Australia,”	2023年9月	10th annual work conference of Maastricht Centre for Citizenship	S. Krajewski
15	辻本登志子	「関西在住のフィリピン人女性の老後と定住場所:結婚移民のケア・ニーズとトランスナショナル移動空間における葛藤に注目して」	2023年9月	フィリピン研究会全国フォーラム	
16	Kenki Adachi	“Security Studies in the Anthropocene,”	2023年10月	Opening Seminar, International Postgraduate Students Conference on International Relations (IPGSC) 2023	
17	Noboru Miyawaki	“Japan’s Future Defense and Diplomatic Strategy in the New Cold War,” “ҮН ХОЙД АЗИЙН АЮУЛГҮЙ БАЙДЛЫН ОРЧИНД ТҮЛГАМДАЖ БҮЙ АСУУДАЛТ”	2023年10月	ОЛОН УЛСЫН ЭРДЭМ ШИНЖИЛГЭЭНИЙ ХУРАЛ	
18	本名純	「ジョコウィ政権と民主主義の後退」	2023年10月	日中ASEANと東アジア秩序変容研究会、神奈川大学	
19	本名純	「大国化を志向するインドネシアはどこに向かうのか:グローバルサウス外交の国内政治インパクト」	2023年11月	安全保障外交政策研究会	
20	Sachiko Ishikawa	Overview of the case studies in the "Human Security and Empowerment in Asia Beyond the Pandemic"	2023年11月	Symposium: Human Security and Empowerment in Asia: Beyond the Pandemic	
21	Kenki Adachi	“Human Security in an Era of Great Power Competition,”	2023年12月	Keynote Speech for ASJI Annual International Symposium and Seminar on Japanese Studies in Indonesia	
22	足立研幾	「日本における安全保障研究の潜在力ー国際関係・安全保障理論のグローバル化に向けて」	2023年12月	国際安全保障学会 2023年度年次大会	
23	Yusy Widarahesty	“Human security of Migrants in Japan from Refugees, Asylum Seekers, International students and Migrant workers,”	2023年12月	The 13th Annual Conference of the Japan Association for Human Security Studies	
24	宮脇昇	「冷戦間期」のヨーロッパとOSCEの役割	2023年12月	国際安全保障学会、慶應義塾大学	
25	Noboru Miyawaki	Mongolia’s Foreign Policy under the Russian War in Ukraine	2023年12月	Slavic-Eurasian Research Center 2023 Winter International Symposium, Hokkaido University	
26	宮脇昇	日本のモンゴル外交の課題	2023年12月	モンゴル・日本外交防衛専門家会合、立命館大学	
27	松田正彦	「東南アジアの脱農化と農業化」	2023年12月	東南アジア学会・第105回研究大会	
28	辻本登志子	「在日高齢結婚移民女性の語りから見えてきた年金へのアクセスの課題とは何か:関西在住フィリピン人女性へのインタビュー調査をもとに」	2023年12月	2023 移民政策学会冬季大会	
29	Yusy Widarahesty	“Reproductive Rights of Migrant Workers,”	2024年2月	Workshop Organized by Sophia University and Nagoya Gakuin University	
30	Polina Ivanova	“Migrants and (is)lands: International students and refugees in focus,”	2024年2月	Migration Winter Academy, Migration Policy Centre, European University Institute	
31	Polina Ivanova	“Refugee regimes in East Asia: A human security perspective on Japan and Taiwan,”	2024年2月	University of East Anglia	
32	Yoshinao Tamai	Ten Years of the Belt and Road Initiative	2024年3月	Ulaanbaatar Experts Meeting of Security and Co-operation in North East Asia	Battulga Sukhee
33	Yoshinao Tamai	What are the virtues in NEA development?	2024年3月	Ulaanbaatar Experts Meeting of Security and Co-operation in North East Asia	
34	Polina Ivanova	“International education and social impact: Perspectives from Japan”	2024年3月	CGHE Seminar	

35	本名純	「インドネシアと北朝鮮の関係」	2024年3月	シンポジウム「北朝鮮のグローバル展開」	
36	Kota Suechika	“Political Communication Strategy in Consociational Democracy: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah’s al-Manar”	2023年5月	OBIC Conference 2023 “Energy Crisis and Security Challenges in the World: Sustainable Responses of the Asian Economies and Societies”	
37	Kota Suechika	“Political Communication Strategy of Lebanese Hezbollah under Political Crises: A Quantitative Text Analysis of al-Manar Channel”	2023年6月	The 25th Mediterranean Studies Association Annual International Congress	
38	Kota Suechika	“Syrians’ Perception of the Post-Conflict Reconstruction under Assad’s Authoritarian Rules: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey”	2023年7月	BRISMES Annual Conference 2023 “Ecology, Crisis, and Power in the Middle East”, University of Exter, UK	
39	Kota Suechika	“Contested Statehood in Post-conflict Authoritarian Syria: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey”	2023年7月	The IPSA 27th World Congress of Political Science	
40	Kota Suechika	“Lebanese Hezbollah’s Political Communication Strategy in Consociational Democracy, 2016-2020: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar”	2023年9月	The 8th International Forum on Asia and the Middle East	
41	Kota Suechika	“Reconsidering ‘State-Diffusion’ in Jordan: Evidence from a List Experiment Survey”	2023年11月	Middle East Studies Association (MESA), The 57th Annual Meeting	
42	Kota Suechika	“Syria’s geostrategic significance after the Iran-Saudi Reconciliation”	2023年9月	The 4th Fudan Forum on Middle Eastern Studies “The Middle East Reconciliation and the Role of Great Power”	
43	Kota Suechika	“Measuring the State-Diffusion in Jordan: Evidence from an Experiment Survey”	2023年10月	The CMEIS-CSS Joint International Workshop “Exploring Social Resilience of Jordan: Formal and Informal Resource Allocations”	
44	末近浩太	「ヨルダンの「国家拡散」を測る：リスト実験によるサーベイ結果の分析から」	2023年10月	「中東の実験政治学ワークショップ：Qualtricsによる実習」科学研究費補助金・基盤研究（A）「中東諸国民の政策選好と統治の正当性」研究会	
45	末近浩太	「10月7日」以降のパレスチナ情勢」	2023年12月	一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所（CIGS）「脱炭素と中東エネルギー地政学研究会」研究会	
46	鳥山純子	「二十年目の赤っ恥」	2023年4月	イスラームとジェンダー科研おとな研、東京外国語大学本郷サテライトキャンパス	
47	Junko Toriyama	Taste of Knowledge “Where to? The direction of a book Taste of Knowledge.”	2023年8月	At International Workshop Taste of Knowledge #3, Editing Fieldwork and Friendship. At NIMAR, Rabat, Morocco.	
48	Junko Toriyama	“Critical Studies of Home Making and Migration in the Middle East and North Africa.”	2023年9月	At FIELD WORKS: Workshop on KULTE 1779. At New KULTE Art Center.	
49	Junko Toriyama	“NIMAR: The Hub, multilateral cooperation between Japan and NIMAR, LUCAS and Moroccan colleagues”.	2024年2月	The Netherlands collaborations: With the President of Leiden University, Prof. OTTOW, At Faculté des Lettres et des Sciences Humaines Faculty of Letters, Rabat, Morocco.	
50	Fukiko Ikehata	“The process of making “Official Islam”: Rethink the Role of International Ulama Network”	2023年7月3日	BRISMES Annual Conference 2023 “Ecology, Crisis, and Power in the Middle East”, University of Exter, UK	
51	Fukiko Ikehata	“Legitimacy, Official Islam and International Norm: Population Control Policy of Iran”	2023年7月	the 27th IPSA World Congress of Political Science	
52	Fukiko Ikehata	“Faith-Based Local Networks in Contemporary Jordan: The Resilience of Social Ties”	2023年10月	International Workshop “Exploring Social Resilience of Jordan and Informal Resource Allocations”, Ritsumeikan	
53	Fukiko Ikehata	“Discussion on Halal Life Norms by Shariah Scholars in the Global Knowledge Network: A Case of the Modern Practices of the International Agreement-Making in	2023年11月	1st International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (ICIHES) & 3rd International Conference on Islamic Law, Economics and Finance (SPEKI)	

		the Islamic World”		2023	
54	池端蒔子	「イスラーム諸国の「人権」規範形成と国際的な信頼醸成:イスラーム協力機構の事例から」	2023年8月	イスラーム信頼学研究会	
55	池端蒔子	「現代中東・イスラーム諸国の地域協力機構:緩やかな連帯のメカニズム」	2024年1月	現代中東地域研究コロキウム第8回研究会	
56	岡野英之	「汚職によって作られた「アジール空間」ー2021年クーデター後のミャンマー「難民」たちはどのように周辺国で暮らしているのかー」	2023年6月	日本文化人類学会 2023年度研究大会、県立広島大学	
57	米田優作	エジプト権威主義体制下におけるサラフィー主義者の政治姿勢:ヌール党関係者の著作分析から	2023年5月	日本中東学会第39回年次大会、筑波大学	
58	Yusaku Yoneda	“Intellectual Transformation of the Salafi Call after the 2011 Political Participation: A Discourse Analysis of Religious Organizations and Political Party Officials”	2023年7月	BRISMES Annual Conference 2023 “Ecology, Crisis, and Power in the Middle East”, University of Exeter, UK	
59	Yusaku Yoneda	“Islam and Politics in Egypt after the 2011 Arab Spring: Focusing on the Analysis of Salafists as New Political Actors”	2023年8月	ISA Asia-Pacific Region Conference 2023, Waseda University	
60	Yusaku Yoneda	"Towards a New Understanding of Contemporary Salafism Studies: Reconsidering 'the political' for Egypt's al-Da'wa al-Salafiya"	2023年8月	The Japan-Jordan International Research Workshop. "Everyday Life and Social Dynamics in the Middle East: Towards a New Analytical Perspective", Online	
61	米田優作	「現代イスラーム思想のなかのサラフィー主義(運動):エジプトと湾岸アラブ諸国との間の思想的共振/競合に着目して」	2023年10月	第60回 AJI 研究最前線セミナー, オンライン開催	
62	米田優作	「『アラブの春』以後のエジプトにおける『イスラーム』と『政治』:ダアワ・サラフィーヤの思想変容を中心に」	2024年2月	日本学術振興会カイロ研究連絡センター定例懇話会(2023年度第9回), エジプト, カイロ	
63	米田優作	「政教関係・政治学・思想研究の交叉路:現代エジプトのサラフィー主義と政治を研究する立場から」	2024年2月	第1回 GSMEIAS 研究報告会, 広島大学東千田キャンパス	
64	廣野美和	中国の経済力と政治力がゆるがす世界の秩序:アジア太平洋から発想力を鍛える	2024年2月	【AJI グローバル・シンポジウム 2024】立命館発 これからの価値創造と私たちの羅針盤:アジア・日本研究からの発信、OIC キャンパス	田中覚 小川さやか
65	Miwa Hirono	China-Japan-South Korea Minilateralism	2023年11月	2023年度日本国際政治学会、"Enhancing Australia-Japan Cooperation: New Approaches to Minilateralism", 福岡国際会議場	David Envall Thomas Wilkins Kyoko Hatakeyama
66	廣野美和	グローバルガバナンスにかかわる中国の関連構想と行動	2023年7月	シンポジウム『『強国』建設に向けた中国の戦略』、21世紀政策研究所	川島真 鈴木隆 丁可
67	中川涼司	中国動漫企業的经营模型和国际发展-騰訊/繪夢和追光動漫為例	2023年10月	東北財経大学公共管理学院主催 数字化时代下公共管理创新发展国际学术论坛	
68	楊秋麗	数字化时代下日本企业在中国市场的战略转移-以资生堂为例	2023年10月	東北財経大学公共管理学院主催 数字化时代下公共管理创新发展国际学术论坛	
69	Cheng Hogbo	長期介護保険給付モデルの研究:北京、上海、広州、成都の事例研究	2023年6月	アジア政経学会	
70	任泰然	中国の県域都市部における施設による高齢者介護サービス-吉林省の公主嶺市と舒蘭市の事例を中心に-	2023年10月	日本現代中国学会全国学術大会	
71	守政毅	台湾 BGC の日本市場への進出と成長戦略	2023年10月	国際ビジネス研究学会第30回年次大会、法政大学(市ヶ谷キャンパス)	魏聰哲
72	守政毅	東南アジアにおける華人企業:多国籍化および中国との循環を視野に入れて	2024年1月	立命館アジア・日本研究推進プログラム 「世界経済の分断と東アジア地域協力の意義:中国の台頭と「二重の双循環」を中心に」公開ワークショップ、BKC キャンパス	

73	竇少杰	「新常态」中国の労使関係～2008年「労働契約法」の施行も重ねて～	2023年5月	日本比較経営学会48回全国大会統一論壇、岐阜大学	
74	竇少杰	日本の老舗企業における家族経営と後継者育成	2023年9月	日本中小企業学会第43回全国大会国際セッション、近畿大学	
75	竇少杰	家族企業的劇性	2023年12月	2023年第10回中国家族企業伝承主題論壇及び中欧第12回中国家族伝承論壇、北京国贸大酒店(中国・北京市)	
76	竇少杰	家族企業伝承中の痛と秘密	2023年12月	2023年第10回中国家族企業伝承主題論壇及び中欧第12回中国家族伝承論壇、北京国贸大酒店(中国・北京市)	
77	竇少杰	東アジアの家族企業と事業承継—その共通性と多様性—	2023年12月	同志社大学人文科学研究所第108回公開講演会:「東アジアの家族企業と事業承継—その共通性と多様性—」、同志社大学	河口充勇 洪性奉
78	白戸圭一	Challenges and possibilities for Japan's diplomacy with Africa	2024年3月	Strategic Japan 2024: Japan and the Global South (CSIS) Center for Strategic and International Studies Washington DC U.S.A	
79	角本和理	生成系AIの技術革新に伴う法整備の課題	2023年12月	シンポジウム「AI技術の応用と法的課題」 キャンパスプラザ京都	
80	小田美佐子	顔認証と民事責任	2023年12月	シンポジウム「AI技術の応用と法的課題」 キャンパスプラザ京都	
81	朱曄	デジタル社会におけるデータ信託の枠組みの重要性	2023年12月	シンポジウム「AI技術の応用と法的課題」 キャンパスプラザ京都	
82	小田美佐子	家族信託の活用と課題	2023年12月	法政基盤研究センター2023年度第3回公開研究会 衣笠+Zoom	
83	朱曄	日本成年後見制度の限界をめぐって	2023年8月	シンポジウム「デジタル社会における高齢者支援の方策をめぐって」 静岡ベガサート	
84	角本和理	米国統一商事法典(UCC)2022年改正の概要:「支配可能な電子的記録(CER)」に関する第12編に焦点をあてて	2023年9月	デジタル資産取引法研究会	
85	申鉉旣	韓国における良心的拒否制度化の評価と課題—人権的・憲法的観点から	2023年11月	日本平和学会 2023年度秋季研究集会(自由論題部会①)	市川ひろみ
86	野島大輔	「特別企画・北東アジアにおける平和教育」(指定討論者)	2023年7月	日本国際理解教育学会第32回研究大会(名古屋学院大学)	「北東アジア平和教育共通カリキュラム開発」プロジェクト、韓国「国際理解教育のためのアジア太平洋センター」、日本国際理解教育学会・国際委員会、他
87	野島大輔	「IBの理念と世界的な視点を『公共』にどう活かすか〜高校『比較文化』実践事例より〜」	2023年9月	国際バカロレア教育学会第8回研究大会(横浜市立大学)	シャミ・ダッタ(岡山理科大学教授)
88	本山央子	フェミニスト外交:ケアの倫理か男同士の絆か?	2024年3月1日	科研基盤B研究課題「フェミニズム理論による新たな国家論の構築」第3回研究会、同志社大学	
89	中本 悟	アメリカにおける「新しい独占」	2023年10月15日	第82回日本国際経済学会全国大会(於明治大学)	中本 悟
90	森原康仁	地政学的緊張と「レジリエントなサプライチェーン」の構築 — 「ロー・ポリティクス」の「ハイ・ポリティクス」への再吸収と極端なグローバル化の修正	2023年5月13日	日本比較経営学会第48回全国大会・統一論題「新自由主義的経営実践のリセット—中国とインドの企業経営—」岐阜大学地域科学部H棟	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年4月	30	アジア日本研究所、国際関係研究科
2	第2回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年5月	40	アジア日本研究所、国際関係研究科
3	第3回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年5月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
4	月例例若手研究会①	立命館大学	2023年5月	10	国際関係研究科
5	第4回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年5月	20	国際関係研究科
6	第5回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年6月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
7	第6回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年6月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
8	月例例若手研究会②	立命館大学	2023年6月	10	アジア日本研究所、国際関係研究科
9	Seminar on Indonesia-Japan Cooperation in Promoting Peace and Security in the Framework of Indonesia-Japan 65th Anniversary of the Diplomatic Relations	立命館大学	2023年6月	50	
10	第7回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年6月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
11	月例例若手研究会③	立命館大学	2023年6月	10	アジア日本研究所、国際関係研究科
12	第8回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年7月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
13	第9回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年7月	25	国際関係研究科
14	月例例若手研究会④	立命館大学	2023年7月	10	国際関係研究科
15	第10回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年10月	25	CMEIS、国際関係研究科
16	第11回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年10月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
17	第12回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年11月	25	国際関係研究科
18	第13回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年11月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
19	Symposium: Perspectives for cooperation of Japan and South Korea to stabilize the volatile security situation, Bilateral and multilateral aspects	立命館大学	2023年11月	50	東アジア平和協力センター
20	第14回 CAPS 研究会	立命館大学	2023年11月	25	アジア日本研究所、国際関係研究科
21	Workshop: Human Security of Migrants in Japan	立命館大学	2023年12月	10	アジア日本研究所
22	モンゴル・日本外交防衛専門家会合	立命館大学	2023年12月	20	
23	月例例若手研究会⑤	立命館大学	2023年12月	15	アジア日本研究所
24	第15回 CAPS 研究会	立命館大学	2024年1月	30	アジア日本研究所、国際関係研究科
25	Ulaanbaatar Experts Meeting of Security and Co-operation in North East Asia	National university of Mongolia	2024年3月4日、3月5日	200	モンゴル国立大学、後援：グローバル・ガバナンス学会、モンゴル地政学研究所
26	月例例若手研究会⑥	立命館大学	2024年3月	10	アジア日本研究所、国際関係研究科
27	The CMEIS-CSS Joint International Workshop “Exploring Social Resilience of Jordan: Formal and Informal Resource Allocations”	立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム	2023年10月	15名(クローズド)	立命館大学国際地域研究所、同国際関係研究科、立命館先進研究アカデミー (RARA)、同国際共同研究促進プログラム、科研費国際共同研究強化B (代表：未近)
28	International Seminar, A Dialogue between two Middle Eastern Feminists:	立命館大学平井嘉一郎記念図書館カ	2023年6月	130名	立命館大学ジェンダー研究会主催、CMEIS/科研(A)：イスラーム・ジェンダー学と現代的課

	social changes, books, and forming feminist selves. (二人の中東出身フェミニストの対話: 社会変革、本、そしてフェミニストとして生きること)	ンファレンスルーム			題に関する応用的・実践的研究共催
29	Mustafa Abdalla 氏講演 “When Mecca calls: Mobility in the context of Pilgrimage and the conversion to Islam in a Malian Village”	立命館大学恒心館 302	2023 年 10 月	5 名	国際共同研究加速基金 (B) 「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」主催、基盤 (B) 『『北部アフリカ』におけるイスラーム的知識の生成・共有と社会変革の論理』/CMEIS 共催
30	The Public Seminar with Mustafa Abdalla: Disease as a Form of Silent Resistance: Engaging in Disease Markets to Attain Healthcare Services (公開セミナー「病気という無言の抵抗——医療サービスへのアクセスを目的とした疾病市場への参入」)	東京外国語大学本郷サテライト 4 階 セミナー室	2023 年 10 月	15 名	基盤研究 (A) 「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究」主催、国際共同研究強化(B) 「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」/基盤研究 (A) 「空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネ이션再考: アジア、米との比較」共催
31	Graduate Seminar with Prof. Leon Buskens, “HERITAGE AND CULTURAL AUTHENTICITY: Creating A National Culture in Morocco”	立命館大学諒友館 308	2024 年 1 月	20 名	国際共同研究加速基金 (B) 「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編」主催
32	第 1 回 GSMEIAS (「中東・イスラーム地域研究 院生研究会」) 研究報告会	広島大学東千田キャンパス	2024 年 2 月	4 名	主催: 中東・イスラーム地域研究 院生研究会 (GSMEIAS) /共催: 現代中東政治研究ネットワーク (CMEPS-J) および立命館大学中東・イスラーム研究センター (CMEIS)
33	Global China Studies Series: Seminar on Geopolitical Competition in Energy Transition: Perspectives of China, Japan, and the Global South	衣笠キャンパス	2023 年 9 月	20 名	AJI (Asia-Japan Research Institute), RARA (Ritsumeikan Advanced Research Academy)
34	Global China Studies Series: "Ten Years of the Belt and Road Initiative: New Policy Trends and Challenges in Southeast Asia"	衣笠キャンパス	2024 年 2 月	12 名	RARA (Ritsumeikan Advanced Research Academy)
35	中国の持続可能な発展への展望	衣笠キャンパス	2023 年 11 月	15 名	上海社会科学院生態・持続可能発展研究所
36	「嫌いな国」からの M&A を正当化する言説戦略: 中国企業による日本企業の買収の事例(中国市場ビジネス戦略研究会)	朱雀キャンパス	2024 年 2 月	10 名	
37	シンポジウム「AI 技術の応用と法的課題」	キャンパスプラザ 京都	2023 年 12 月	10 名	立命館大学国際地域研究所、静岡大学デジタル社会における法的対応研究所、立命館大学法政基盤研究センター
38	日韓ジョイントセミナー「東アジアにおける紛争、予防、早期警戒」	大阪いばらきキャンパス	2023 年 6 月	22 名 (ハイブリッド)	日本平和学会、PEACEMOMO (韓国の NGO)
39	野島大輔	「特別企画・北東アジアにおける平和教育」(指定討論者)	2023 年 7 月	日本国際理解教育学会 第 32 回研究大会 (名古屋学院大学)	「北東アジア平和教育共通カリキュラム開発」プロジェクト、韓国「国際理解教育のためのアジア太平洋センター」、日本国際理解教育学会・国際委員会、他
40	野島大輔	「IB の理念と世界的な視点を『公共』にどう活かすか〜高校『比較文化』実践事例より〜」	2023 年 9 月	国際バカロレア教育学会 第 8 回研究大会 (横浜市立大学)	シャミ・ダッタ (岡山理科大学教授)
41	ワークショップ「『トラブルの時代』におけるジェンダーの理論化の課題」	お茶の水女子大学ジェンダー研究所	2023 年 10 月 20 日	8 名 (クロード)	お茶の水女子大学ジェンダー研究所
42	Yusy Widarahesty	The Challenges of Multicultural Societies in	2024 年 3 月 1 日		The Japan Foundation Jakarta

		Japan			
43	村上剛	日本における移民・難民受け入れの政治と人々の賛否態度	2023年6月17日		立命館大学土曜講座
44	第76回日米中政治経済研究会	立命館大学衣笠キャンパス SE206	2023年6月24日	18名	第76回日米中政治経済研究会
45	第77回日米中政治経済研究会	立命館大学衣笠キャンパス SE205	2023年7月8日	16名	第77回日米中政治経済研究会
46	第78回日米中政治経済研究会	立命館大学衣笠キャンパス RY301	2023年12月24日	20名	第78回日米中政治経済研究会
47	第79回日米中政治経済研究会	立命館大学衣笠キャンパス RY301	2024年1月20日	16名	第79回日米中政治経済研究会
48	第80回日米中政治経済研究会	立命館大学衣笠キャンパス SE205	2024年2月17日	20名	第80回日米中政治経済研究会

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	本名純	「闘争民主党の選挙戦略と国家ビジョン」	『月刊インドネシア』2023年4月号	
2	本名純	「U-20W 杯の政治的効果」	『じゃかるた新聞』2023年4月10日	
3	本名純	「ゲームチェンジャーとなった FIFA U-20 ワールドカップ」	『月刊インドネシア』2023年5月号、p.7	
4	本名純	「副大統領選の政治駆け引き」	『じゃかるた新聞』2023年5月15日。	
5	Polina Ivanova	“Networks of support: Civil society’s role in integrating international students in Japan and Australia”	Oxford University, Centre for Global Higher Education, CGHE Seminar 357, May 18, 2023	
6	Polina Ivanova	“Civil Society and International Students in Japan: The Making of Social Capital”	MIDEX seminar, University of Central Lancashire, May 24, 2023	
7	本名純	「正副大統領候補のペアリング政治」	『月刊インドネシア』2023年6月号、p.6	
8	小林主茂	「グローバル国際関係学から考えるロシア・ウクライナ戦争」	立命館大学校友会アカデミック講演会における調査報告（京都）	2023年6月3日
9	本名純	「ブラボウオ現象」	『じゃかるた新聞』2023年6月12日、一面	
10	村上剛	「日本における移民・難民受け入れの政治と人々の賛否態度」	立命館大学土曜講座、「今、改めて難民問題を考える」2023年6月17日	
11	本名純	「アニス外しの誘惑」	『月刊インドネシア』2023年7月号、p.6	
12	本名純	「ガンジャルの苦悩」	『じゃかるた新聞』2023年7月10日。	
13	白戸圭一	「日本人のアフリカ観は時代遅れ 悲観か楽観かで捉えるな」	『Wedge』2023年7月号、60-62頁	
14	本名純	インタビュー記事「ミャンマー問題打開へ退役軍人を派遣か ASEAN 議長国の危機感」	『朝日新聞』2023年7月12日	
15	本名純	コメント掲載「一枚岩へ試練のASEAN」	『朝日新聞』2023年7月12日	
16	本名純	「ブラボウオの選挙戦略」	『月刊インドネシア』2023年8月号、p.10。	
17	宮脇昇	「日露戦争（日本海海戦）の捕虜収容過程 近代国家日本の海軍行政とロシア海軍捕虜たち」	坂の上の雲ミュージアム近代国家講座、坂の上の雲ミュージアム 2023年8月12日	
18	本名純	「ブラボウオ連合の結成」	『じゃかるた新聞』2023年8月14日、一面。	
19	本名純	「ブラボウオの求心力」	『月刊インドネシア』2023年9月号、p.11。	
20	小林主茂	「ロシア・ウクライナ戦争と日米関係の今後の展望」	在アメリカ合衆国日本国大使館内部セミナーにおける講演・調査報告（アメリカ・ワシントンDC）	2023年9月8日

21	本名純	「アニスとパロの同床異夢」	『じゃかるた新聞』2023年9月11日、一面	
22	小林主茂	“Non-Western Powers in the Changing Global Security Order: Insights from the Cases of China, Japan, and Russia”	United States Institute of Peace, USIP China Program 内部セミナーにおける調査報告 (アメリカ・ワシントンDC)	2023年9月13日
23	Polina Ivanova	“Civil Society and International Students in Japan: Methodology and Fieldwork,”	Lecture Series in Japanese Studies, Leiden University, September 20, 2023	
24	Campbell, B., Ivanova, P. & Vodopivec, M.	Refugees and asylum seekers in East Asia: Perspectives from Japan and Taiwan,	LUCIR Seminar: Leiden University, September 21, 2023	
25	森下明子	「総説：マレーシアという国」	『アジアマップ』 Vol.1	
26	森下明子	「マレーシア 21 世紀年表」	『アジア・マップ』 Vol.1	
27	松田正彦	「東南アジア地域研究の視点から」	『アフリカから農を問い直す』合評会、2023年10月14日	
28	本名純	「2024 年大統領選挙と政治の展望」	MUFG 銀行ジャカルタ視点経済講演会、10月16日	
29	白戸圭一	「大国間競争の中のアフリカ ロシア・中国の動向に着目して」	多摩大学 2023 年度秋学期寺島実郎監修リレー講座第5回、於多摩大学、2023年11月2日	
30	本名純	モデレーター	Symposium on “Next Generation Leaders - Connecting Indonesia-Japan” organized by JICA Indonesia, 15 November 2023.	
31	白戸圭一		2023 年度国際協力機構 (JICA) 課題別研修「投資促進・ビジネス環境整備 (B)」2024 年 2 月 19 日、JICA 関西	
32	本名純	「2024 年インドネシア大統領選挙と今後の政治展望」	ジャカルタ・ジャパン・クラブ (JJC) セミナー、2024年2月22日	
33	Yusy Widarahesty	“The Challenges of Multicultural Societies in Japan,”	The Japan Foundation Jakarta, March 1, 2024.	
34	Kazushige Kobayashi	“Authoritarian Conflict Management? Russia’s Approach to Peace and Conflict in the Middle East and Beyond”	ジョージ・メイソン大学 Schar School of Policy and Government, Russia and the Middle East Seminar における講演・調査報告	2024年3月19日
35	小林主茂	「ロシアと 2024 年アメリカ大統領選挙」	在アメリカ合衆国日本国大使館内部セミナーにおける講演・調査報告	2024年3月13日
36	Kazushige Kobayashi	“The Crisis of Liberal Peace in the Changing Global Security Order: Non-Western Powers and Alternative Approaches to Peace and Conflict”	ジョン・ホプキンス大学 Paul H. Nitze School of Advanced International Studies, Global Security and Conflict Management Seminar における調査報告 (アメリカ・ワシントンDC)	2024年3月11日
37	末近浩太	「<総説>レバノンという国」	アジア・日本研究 Web マガジン『アジア・マップ』 Vol.1	2023年7月20日掲載
38	末近浩太	「中東政治：中東を「難しい」で終わらせないために」	αSYNODOS vol.319	2024年1月
39	末近浩太	「中東を「難しい」で終わらせないために (世界の現在)」	『小日本』第46号, pp14-17	2024年3月31日発行
40	Kota Suechika,	“Middle East Public Opinion Survey: Jordan 2023” (共著)	CMEIS Report, No. 11 (Research Resources)	2023年7月11日掲載

	Fukiko Ikehata, et al.			
41	Kota Suechika, Fukiko Ikehata, et al.	“Middle East Public Opinion Survey: Lebanon 2024” (共著)	CMEIS Report, No. 12 (Research Resources)	2024年3月14日掲載
42	末近浩太	「ハマス・イスラエルと世界の「アポリア」 (立山良司・錦田愛子との対談)」	『外交』 Vol. 82, 2023年11/12月号, pp. 6-17	2023年12月1日発行
43	末近浩太	我々は中東・イスラームの何を知っているのか (須賀川拓 TBS テレビ中東支局長との対談)」	2023年「立命館セミナー」, SOAS University of London	2023年8月1日
44	末近浩太	「パレスチナ問題から中東情勢を眺望する」	朝日カルチャーセンター京都教室	2023年12月19日
45	末近浩太	混迷の中東政治を読む:なぜ紛争が絶えないのか (現代社会を読み解く)	『中東・イスラーム学び直し—地域研究が描き出す政治・文化・宗教』, 立命館アカデミックセンター講座, オンライン開催	2024年1月17日
46	末近浩太	「ガザ危機を見る視座」	立命館ピース・ネットワーク公開学習会, 立命館大学・ハイブリッド開催	2024年1月22日
47	末近浩太	「中東政治を理解する:その仕組みと展望」	金融財政事情研究会 金曜例会, 一般社団法人 金融財政事情研究会	2024年2月2日
48	末近浩太	中東を脱神話化する:異文化理解と情勢分析の あいだで」	立命館西園寺塾 2023年度梅原文明コース, 「立命館東京キャンパス	2024年2月3日
49	末近浩太	「トルコ・シリア大地震 (現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1面	2023年4月17日
50	末近浩太	「世界を左右する中東の新局面 (発言)」	『毎日新聞』朝刊, 13面	2023年6月8日
51	末近浩太	「ブダペストの恐怖の館 (現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1面	2023年6月8日
52	末近浩太	「欧州とアルゼンチン (現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1面	2023年8月15日
53	末近浩太	「パスポートの「強さ」 (現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1面	2023年9月29日
54	末近浩太	「貨物船乗っ取りのフーシヤハマスも 「親イ ラン組織」の勢力図とは (イスラエル・パレス チナ 対立の真相 第38回)」	朝日新聞デジタル	2023年11月24日
55	末近浩太	「二者択一を超えて (現代のことば)」	『京都新聞』夕刊, 1面	2023年11月30日
56	末近浩太	ハマスはどう壁を越えたのか 動画で見る「異 例づくし」の10・7」	「朝日新聞デジタル	2023年12月7日
57	鳥山純子	『「家父長制ホラー」が照らすシステムからの 脱却』 Islam 映画祭トークセッション	神戸元町映画館	2023年4月30日
58	鳥山純子	「中東で政治化される女性身体【イラク戦争から 20年②】」	聡子の部屋第41回, オンライン・ Readin' Writin' Book Store	2023年5月19日
59	鳥山純子	「イスラームと『マザコン』—母子関係から考 える現代中東のジェンダー」	『中東・イスラーム学び直し—地域研究が描き 出す政治・文化・宗教』, 立命館アカデミック センター講座, オンライン開催	2024年2月8日
60	鳥山純子	「解説 二〇年越しの出会い、ディーワーンと ナディアと『SHELF LIFE』」	ナディア・ワーセフ著、後藤絵美訳『シェル フ・ライフ—カイロで革新的な書店を愛し育 て、苦悩した記録』, 株式会社 G.B., pp. 378- 380 (p. 399)	2023年7月18日
61	鳥山純子	「学外研究の成果—モロッコで、言語と愛と 羞恥心について考えた」	『News Letter, Faculty of International Relations』 第59号, pp. 6-11	2023年
62	岡野英之	「【エッセイ】 ミャンマーの民主闘争と国内避 難民 (1)—街角にいる「隠れた国内避難民」た ち—」	アジア平和構築イニシアティブ、笹川平和財 団	2023年12月1日

63	岡野英之	「【エッセイ】ミャンマーの民主闘争と国内避難民(2)―仏教僧院という隠れた「避難民キャンプ」―」	アジア平和構築イニシアティブ、笹川平和財団	2024年1月15日
64	岡野英之	「【エッセイ】ミャンマーの民主闘争と国内避難民(3)―越境支援の現場から―」	アジア平和構築イニシアティブ、笹川平和財団	2024年2月29日
65	Miwa Hirono	Minilateral solutions to the geoeconomic challenges facing Japan and Australia	East Asia Forum	2024年3月
66	Miwa Hirono	How Australia and Japan can boost minilateralism to counter Chinese influence	East Asia Forum	2024年3月
67	Miwa Hirono	The Quad's growing focus on maritime security	East Asia Forum	2024年2月
68	Miwa Hirono	Australia, Japan and the new web of Indo-Pacific minilateralism	East Asia Forum	2024年2月
69	廣野美和	shiRUto コラム 中国の「一帯一路」とは？ 専門用語をわかりやすく解説② 一帯一路の今後は？	shiRUto	2024年3月7日
70	廣野美和	shiRUto コラム 中国の「一帯一路」とは？ 専門用語をわかりやすく解説① 「6つの陸路と2つの海路」	shiRUto	2024年2月29日
71	廣野美和	「中国 一帯一路が続く先に」 by リベラルアーツプログラム for Business	LIBERARY (KDDI の動画オンデマンドサービス)	2023年5月～
72	白戸圭一	日本人のアフリカ観は時代遅れ 悲観か楽観かで捉えるな	Wedge 出版『Wedge』7月号	2023年7月号
73	申鉉旰	イ・ヨンソック著、森田和樹 訳『兵役拒否の問い』に対する書評 「個人の人権保障としての兵役拒否運動から反戦平和運動へ―徴兵制が敷かれる社会で兵役を拒否する重圧とはどれほどのものなのか」	図書新聞	2024年3月30日
74	小山大介	激変する中小企業の景況と外部経済環境	中小企業家同友会全国協議会、第8回経営労働問題全国交流会、山口市湯田温泉、かめ福オンライン	2023年8月31日

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	竇少杰	一般社団法人商工総合研究所	中小企業研究奨励賞準賞 (経営部門)	東アジアの家族企業と事業承継	2024年3月

7. 科学研究費助成事業 (科研費)

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	村上剛	「日本における移民排斥感情の理解と理論的検討」	基盤研究 (C)	2023年4月	2025年3月	代表
2	本名純	新型コロナ危機の政治的インパクト：東南アジア地域モデル構築による比較政治研究の刷新	基盤 (A)	2022年4月	2027年3月	代表
3	足立研幾	欧州統合の「逆行」と EU-アジア太平洋関係：国際構造と地域統合の相関についての考察	基盤 (B) (代表：岡部みどり)	2023年4月	2027年3月	分担
4	足立研幾	過剰/過少安全保障化の理論化に向けて―COVID-19を事例として	基盤 (C)	2022年4月	2027年3月	代表
5	宮脇昇	国際・国内公共政策決定過程における沈黙利用の分析	基盤研究 (C)	2022年4月1日	2026年3月31日	代表
6	宮脇昇	構造変革期における経済制裁の変容	基盤研究 (C)	2021年4月1日	2024年3月31日	分担
7	末近浩太	「歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな中東地域研究の開発」	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表
8	末近浩太	「危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から」	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	2022年10月	2025年3月	代表

9	末近浩太 吉川卓郎	「現代中東における「政治の宗教化」と「宗教の政治化」： ムスリム同胞団の比較事例研究」	基盤(B) (代表：横 田/明治大学)	2023年4月	2026年3月	分担
10	末近浩太	「ハイブリッド戦争時代における新たな安全保障学の構築 —中東ユーラシア地域の事例から」	基盤(A) (代表：中 西/同志社大学)	2022年4月	2025年3月	分担
11	末近浩太	「政治体制としての代議制民主主義の現状と可能性—東地 中海地域の事例から」	基盤(A) (代表：月 村/同志社大学)	2022年4月	2027年3月	分担
12	末近浩太	「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新 動向：過激派と対峙する主流派」	基盤研究(A) (代表： 小杉)	2019年4月	2024年3月	分担
13	末近浩太	「空間・暴力・共振性から見た中東の路上抗議運動とネイ ション再考：アジア、米との比較」	基盤研究(A) (代表： 酒井/千葉大学)	2021年4月	2024年3月	分担
14	末近浩太	「中東の非国家武装主体の越境的活動に関する比較研究」	基盤研究(B) (代表： 高岡/東京外国語 大学)	2021年4月	2024年3月	分担
15	末近浩太	「関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学 術ネットワークの確立と活性化」	新学術領域研究 (国際活動支援 班) 繰越金	2016年6月	2024年3月	分担
16	鳥山純子	「ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグロー バル移動と社会関係の複合的再編」	国際共同研究加速 基金 (国際共同研 究強化(B))	2019年10月	2024年3月	分担
17	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・ 実践的研究」	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担
18	池端蒔子	「イスラーム諸国の信頼情勢と合意形成：人類互敬・同胞 精神と現実政治の拮抗の中で」	学術変革領域研究 (A)	2023年4月	2025年3月	代表
19	池端蒔子	「中東の国家間対立と「公的イスラーム」の役割：国家の正 統性と法学者ネットワーク」	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
20	岡野英之	「噴火と原発事故からの広域避難をめぐる住民組織の役割 と変容に関する比較社会学的研究」	国際共同研究加速 基金 (国際共同研 究強化(B))	2019年10月	2024年3月	分担
21	岡野英之	「ミャンマー・2021年クーデター後の政治的混乱と国境地 域」	基盤研究(B)	2023年4月	2028年3月	代表
22	岡野英之	「「国家の介入しにくい空間」における秩序の生成—アジ ア・アフリカの人類学的国家論」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
23	米田優作	「中東地域におけるイスラームの保守転回と政治介入：サ ラフィー主義ネットワークの研究」	特別研究員奨励費	2023年3月	2025年3月	代表
24	廣野美和	「一带一路と世界秩序：沿線国の総選挙から見る対中観の変 容」	基盤研究 (C)	2021年4月	2025年3月	代表
25	廣野美和	「外交的抗議のラリー効果についての包括的研究」	基盤研究 (B)	2023年4月	2027年3月	分担
26	守政毅	「企業家ネットワーク形成と社会関係資本の獲得を促すネッ トワーク組織に関する研究」	基盤研究 (C)	2021年4月	2025年3月	代表
27	陳晋	「外部環境の変化に伴う中国製造業企業のプラットフォーム 戦略に関する研究」	基盤研究 (C)	2023年4月	2026年3月	代表
28	竇少杰	「家族企業の持続可能な経営の実現に関する国際比較研究： 東アジアの共通性と多様性」	基盤研究 (C)	2022年4月	2026年3月	代表
29	白戸圭一	「2010年代日本の対アフリカ政策～「反応」から「戦略」へ の転換を検証する」	基盤研究 C (一般)	2020年4月	2024年3月31 日	代表
30	角本和理	「不法行為法における「違法性」要件の意義再考：AI時代の 到来を契機として」	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金 (政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	廣野美和	Enhancing Australia-Japan Cooperation: New Approaches to Minilateralism	Australia-Japan Foundation	2022年	2023年	分担
2	朱擘	高齢者データの信託をめぐる法的枠組みの構築	研究助成 トラスト未 来フォーラム	2022年10月	2024年3月	代表

